

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black



A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19

ル 2
393
2

大頭
全書

世界國盡

阿非利加洲

二



0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

20

1

2

3

4

東洋學

藏書

門牌 2
號 999
卷 2

へて支配の君も	は王といひ帝と唱	風俗甚ど陋一國々	餘ハ大抵黒奴	巴人の種も	萬北の方	坪人の數	ハ千二百九十四萬	阿非利加洲の廣	阿非利加の事
---------	----------	----------	--------	-------	------	------	----------	---------	--------

阿非利加洲乃廣大
 北二千三百里西
 東

東洋學

世界國畫卷二

さども強き者の力
づくふて弱き者を
苦しむる風をれを
争の絶間をいと
ふ



阿非利加ハ四方皆

此の海を二百里
四方は海峽湾曲を
入海稀き河が
なり内地の様は
んと船の法身は便

海まで唯細亞
一續く處は未洲の
地峽として百里を
その地續のその
この地續はハ蒸氣
車の路の一日
は往來も一又四
五年前より佛蘭西
人の目論見にて此
地續を掘割り通船

唯一海岸は道
西洋人の運系は
法をせし文の物産
地を廣く人も少く
少き人と思ふ

の路を開かんとして大抵趣向もつて小舟の通ハ既に出來るよ一の堀割を成し歐羅巴より東洋の船度支那等へ航海も喜望峰を廻らして地中海へ直西紅海へ

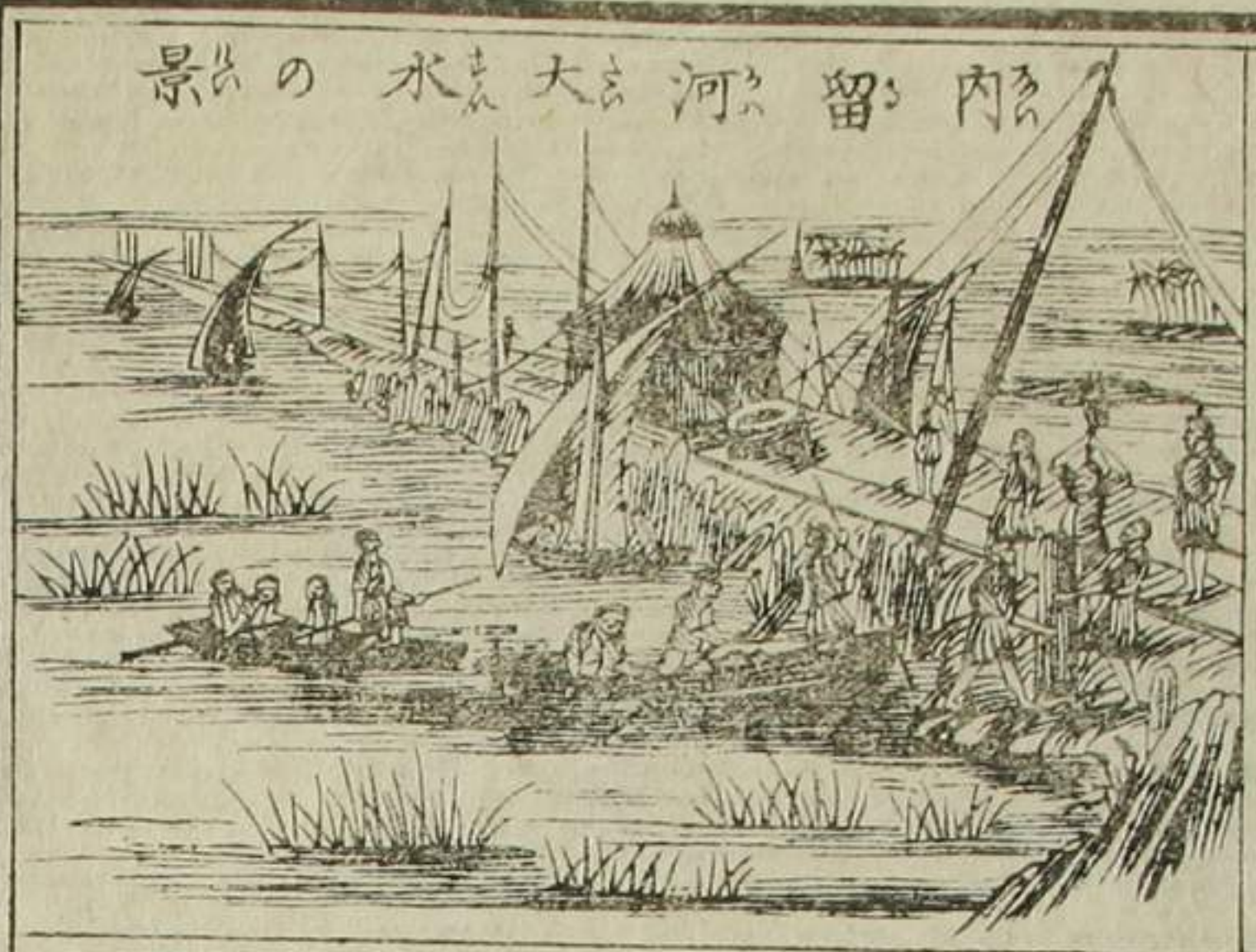
又其志は枝葉を北と東の數苗國に於て一様なる智識の一世舟とあり

余程の近路あり

○衛士府都ハ山少く平地あり内留といふ大河ありて國の中央と流まの濕りて田畑も登り且折々河の水溢れ其跡ハ却て作物よ

其計あり「西亞細亞」の西に「衛士府都」の河に「利加」の一大國あり古名土留古より支那

の人大水を以て
豊年の瑞として悦ぶ
よー



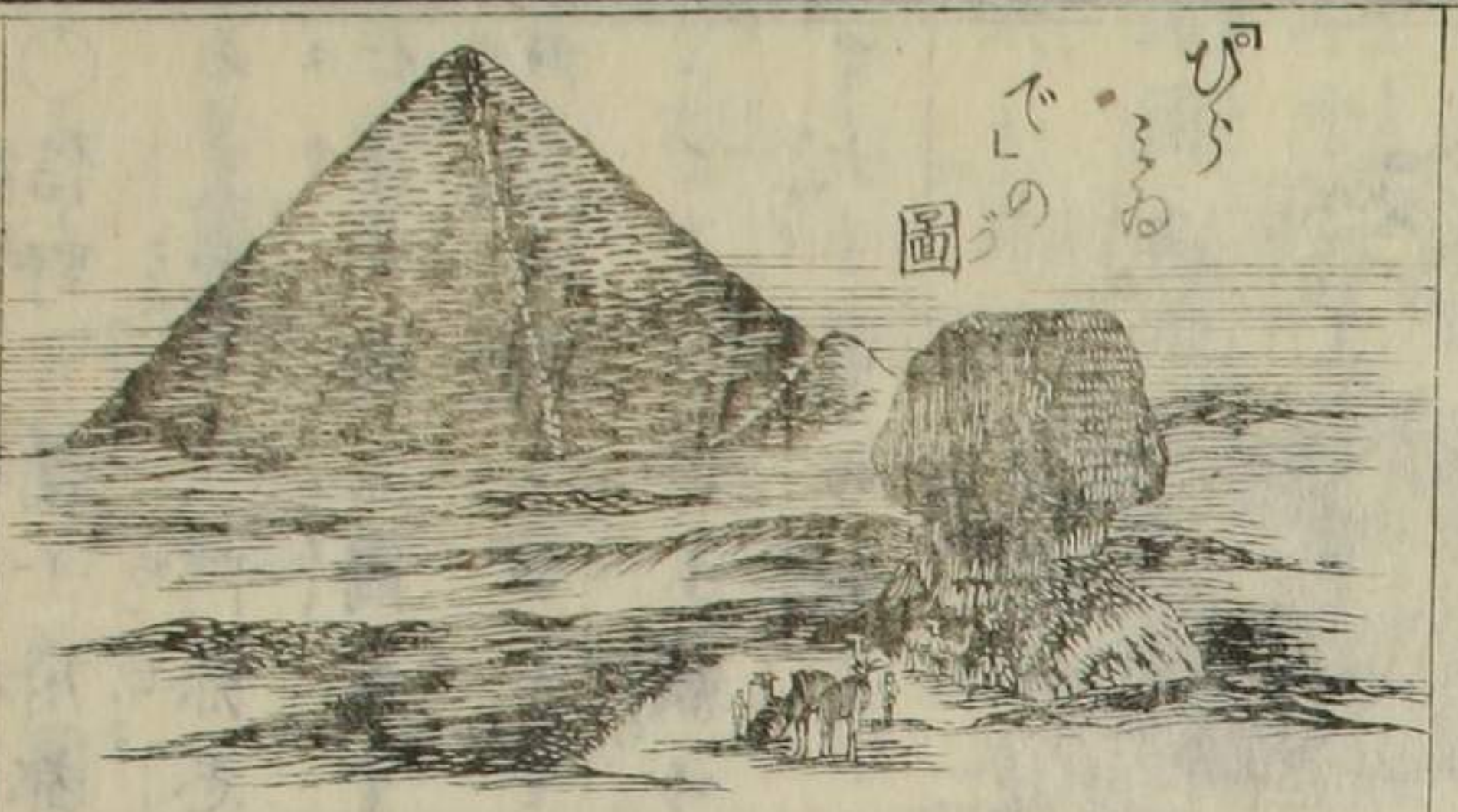
市一土地ありて今
は多し其獨立國と
名ふ毎おふり年
を多し河内留河との
東は海橋、海士府

其の邊ハ不思議か
る地も四時とも
雨降ふ草木を養
ふのハ夜の露の
時侯ハ熱く砂塵
と吹立人の住居
ハ快かたど産物ハ
米麥綿烟草の類か
衛士府都ハ古き國

都國の首府あり河
の波岸城あり其は
云々一毛少くは法羅
三井天たさ西百八十
尺石段下る石塔を

大造なるもの多
 比羅三井天の敷
 六七十年其最
 大なるものハ本
 文おもいへる通
 高さ四百八十尺世
 の言傳は三千年以
 前國王の墓碑は建

支那の南東に在る
 聲を起す古
 跡とて印人の陸台
 明く田畠の流るる
 入り込み多しと云



てしものなりと

信聖國の南
 志公屋西の海
 際戸の口南東に楚
 本林國印度の海に在
 一尺赤道越え南

○信野ハ衛士府都
の支配アリ阿弥志
仁屋ハ獨立國あり
此邊の河ハひがせ
よまはといふ獸
大さ象の如し



如く「三義系」と「長山以丘」
「河非利加乃」東國物
「長山以丘」の港より海
「痛」麻田糟輕「印度」
海は西方より北より互

○麻田糟輕ハ文化
年中より歐羅巴の
諸國と條約を結び
俄ハ風俗改メ文武
とも不盛なり一ガ
文政十一年其國王
良多馬ふる者王妃
ハ毒害せしむる也
ハ國中大乱の世
とあり一時ハ外國

るの島のよきよ人氏四
百七十系ハ西洋人
と法身一一音書ハ
第一「熊」名一「國」
以昇化し近のよき

人とも残らむ道出
したる近來ハ又々
開國とて外國の
附合も始りしか
ども以前に較れ
國の威光大に衰
し全く鎖國の
騷動ありて一
國の都と柳奈龍
といふゆり繁
花

麻田槽輕乃西南
阿波利加海の陸の
陸西に廻るは
望峰「望峰を
西海の風と陽を
と



○喜望峯の地ハも

麻田槽輕の都柳奈龍の景

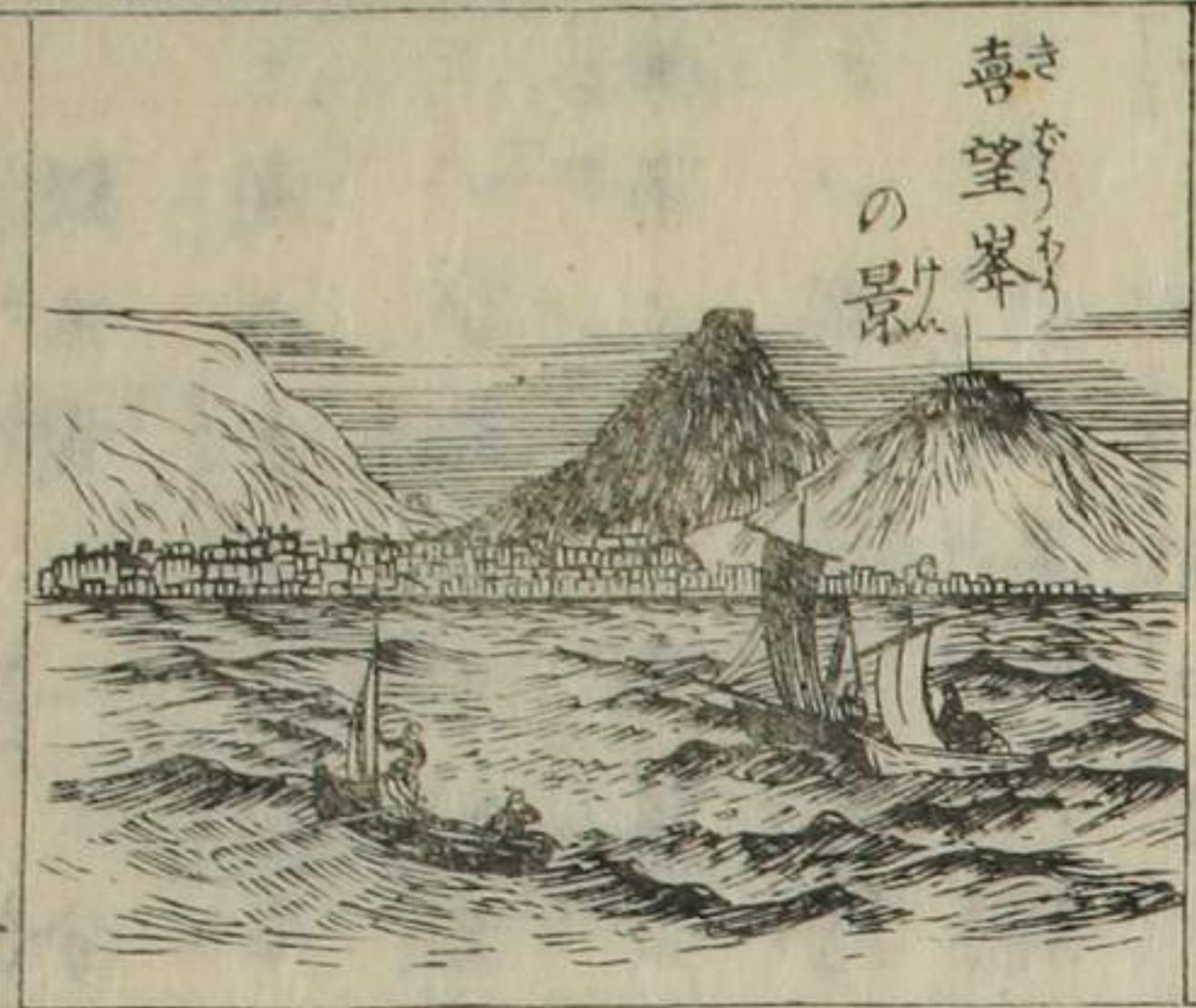
ふる地もりり

換影を記章遠をぬ
英吉利印度地
舟を長江
海の河多羅海越
と志し以陸

和蘭の領分あり
 六十一年以前より
 英吉利の支配と
 されし故に當時も
 和蘭人の種多し喜
 望峰の港の名とけ
 いふとせんといふ
 商賣繁昌し産物も
 多し南の方敷天戸
 池屋の邊に住居も

和蘭の領分あり
 六十一年以前より
 英吉利の支配と
 されし故に當時も
 和蘭人の種多し喜
 望峰の港の名とけ
 いふとせんといふ
 商賣繁昌し産物も
 多し南の方敷天戸
 池屋の邊に住居も

阿非利加人の實
 は愚かして人間の
 内の下等なりとい
 ふ



乃西の「叢天戸池」
 屋新「新」橋上下銀
 名「理」都利屋園又
 乃北の二箇國名志
 苗良禮恩「瀬」拓賢

○銀名國ハ二子分
 南の方と下銀名
 といひ北の方と上
 銀名といふ其界又
 あいぜつとして大河
 河上銀名ハ處
 處又英吉利和蘭等
 の領分河をく土地
 の産物砂金又ハ椰
 子の實の油かどと

宮「阿利加
 西國筋乃國との
 様ハ東の國ト異
 中よ一區の理
 部利屋ハ「阿利加
 部利屋ハ「阿利加

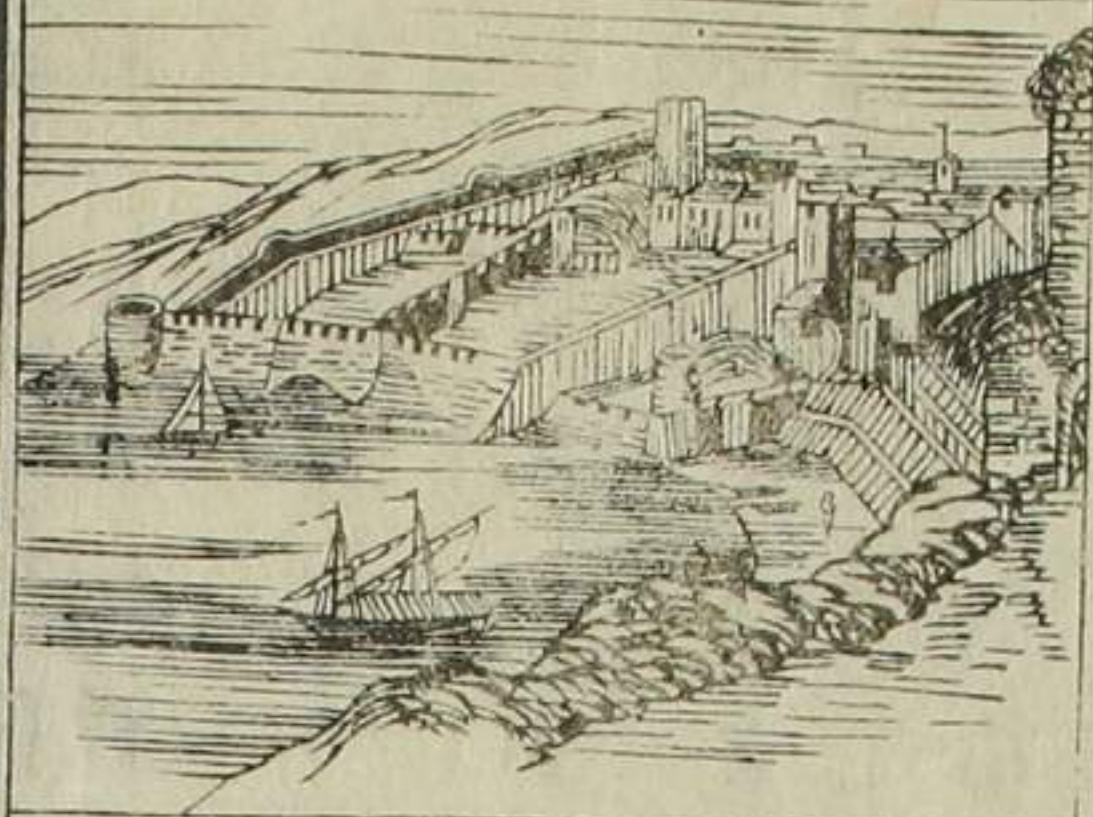
積出見よ下銀名
 ハ葡萄牙の領分
 此邊ハ獅子多
 く折々人を害は恐
 うべきとやう



乃國福「一種多
 共和政人氏ん
 議事院た
 事以議「北亞米
 利加「流行の自由

大減オホセドトヨリヨリ
○茂祿子モロキの港丹路ミナトニ
留ルハ治部良留シロ多雷タライ
の瀬戸セト臨ミミ西班イタリヤ
牙國イタリヤと對岸ツグあり

丹路の留の景



教シユノミ地味チミ紀キト
天テン乃ノ惠ヱハ濃ノケケモ
君キミ以ヨリ政事セイジ以ヨリ務ツク
農ノ政セイ勤ツシシヨ
者モノトト耶ヤ東ヒガシト

○阿留世里屋ハ氣キ
侯コウ穂ホトト五穀ゴコク菓カ
實シの登ノアト茂祿モロキ
子コノ劣ノララ其都ミコハ
海岸カイガンより小高コタカ山ヤマ
の麓ノ開ヒテ風景フウセイヨ
四五十年前シヨウゴハ此ココ
邊ヘリ海賊カイゾク多タク諸國シヨク
の船フネを悩ナセセ我ワ文ブン
化カ年中ネンチュウ亞米利加アメリカの

隣トナリハ阿留世里屋アヲセリヤ
人口コウコウ二百五十萬ニヒヤクゴジュウマン人ヒト
以ヨリ寺テラ々々四十餘シヨウジュウ年ネン
佛ブツ茶チャ東トウ西セイ國クニ一イツ改カヘ
乃ノ身ミ不フ羈キ獨ドク立ツク

軍艦みれがとめよ
阿留世里屋と攻て
六萬のらるの償
と取りらとめり



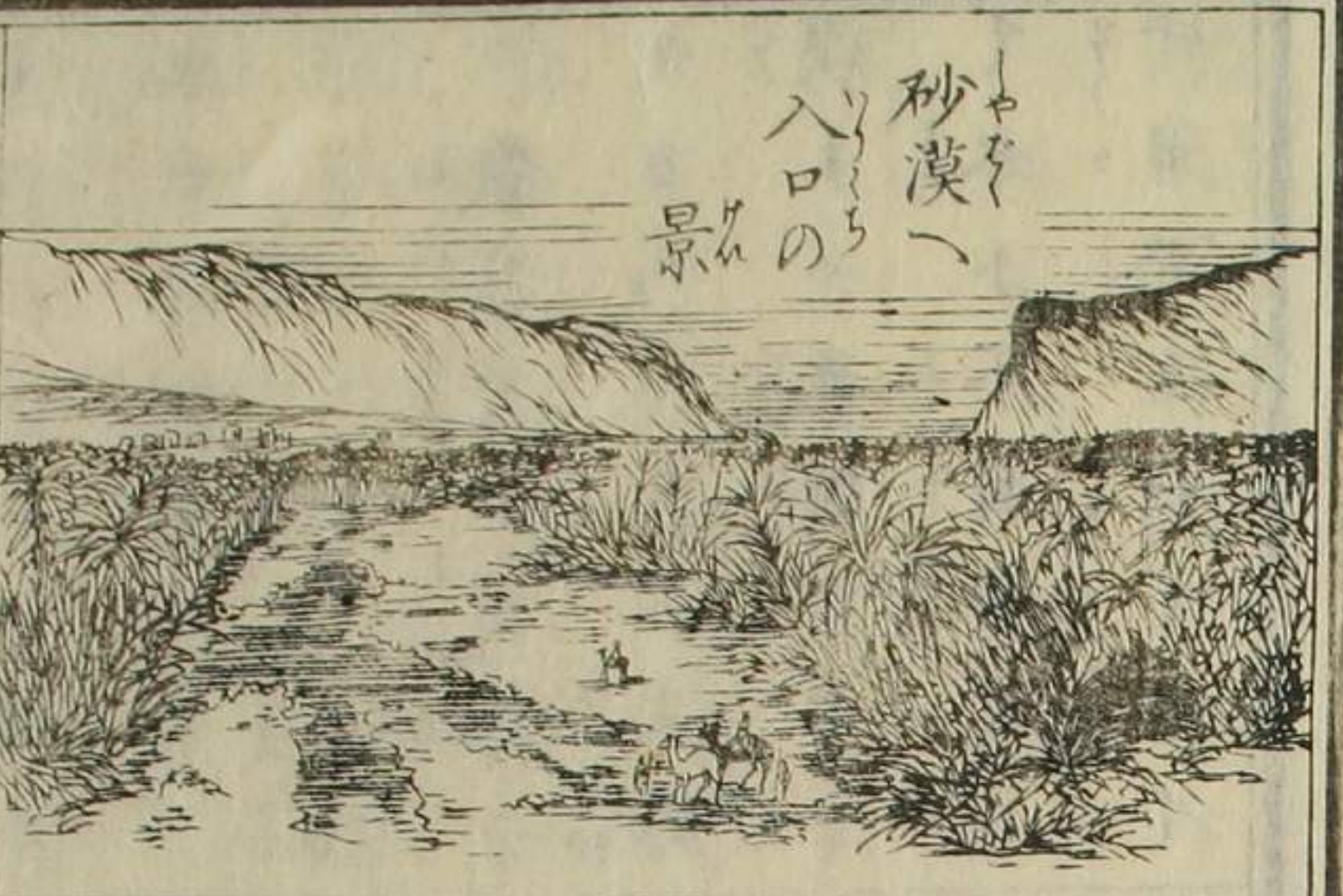
のふえ絶えし佛
よきもろく総奉
行の心より
成れ捲く兵士軍
艘数おほく二百餘

○戸仁須戸里堀等
の諸國の内より戸
仁須の人ハよく農
業と勤り且此國ハ
ハ五穀綿烟草等の
外ハ銀銅鉛水銀の
産物あり戸里堀の
人ハ冬と常食はせ
そ都て荒火屋邊よ
り阿非利加の海岸

美以人 民を佛業
西帝の権威は
了靡くをの宗は
う水と東衛寺
都の間に

ハ寒の多き處あり
○阿非利加の内地
ハ西洋人の詮索あり
ハ越尾比屋かど
ハ人ハ最も教なく
ハ人情甚ど粗く
ハおやむくといふ處
ハの黒奴ハ人と殺て
ハ肉と喰ふより

玉を戸仁次「戸里」
堀馬苗加國「其」
少一過山國大略
同「夷狄人」
去留吉ふ控「一」名あ



砂漠の内の稀な
ハ山ふ草の茂れた

砂漠の入口の景

わて「實多」に支配を
ホ子「阿非利加」の内地
の極ハ初「多」を「大」
染「た」る國境南北
「越尾比屋」を

るあを譬へば大海
 は嶋わつが如く往
 来の人ハ山の草と
 駱駝の飼料とを
 あく但し人の食物
 ハ數箇月の用意を
 かかべりつに又砂
 漠ハ兩降らざし
 て木ハ不自由なり
 十日路も行て始て

南心凡四百餘里
 澤東西一各三百里
 各七界中其大砂
 修束の系と心ある
 一系凡四百餘里

湧泉も出逢ふ位の
 貯もかくて叶ぬ
 化二年は當り阿非
 利加の人二千駱
 駝千八百疋を引
 砂漠を渡りし折
 行逢せばして残ら

南心凡四百餘里
 澤東西一各三百里
 各七界中其大砂
 修束の系と心ある
 一系凡四百餘里

日湯死ひしほとるあや
 〇麻寺ハ小島あまをん
 とも山水さんすいの風景ふうけい甚
 とも産物さんぶつハ葡萄ぶどう
 酒さけり氣候きがいハ春夏しゅんげ
 秋あき冬ふゆ大抵たいてい同様どうようにて
 病人びやうじんかどの養生所やうじやうじよ
 也宜よし一加奈利屋かなりやハ
 西班牙いはいばの領分りやうぶんなり

渡わたりてを砂漠さほく離り
 其その河がの海うみ一いつ
 出いてを麻寺あま崎さきより
 支配しはいを葡萄ぶどう牙が葡ぶ
 葡ぶの業わざ海うみの石いし心こころ

麻寺島あまの景けい

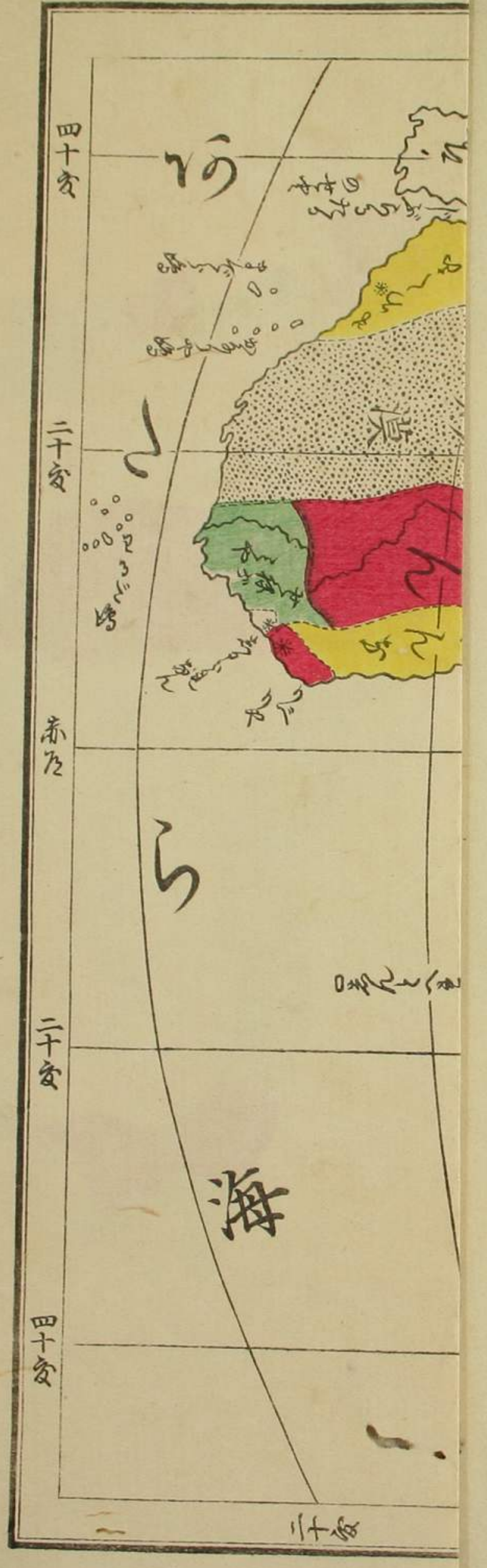


その模様もようハ大抵たいてい麻あま
 寺てらニ同おなじ

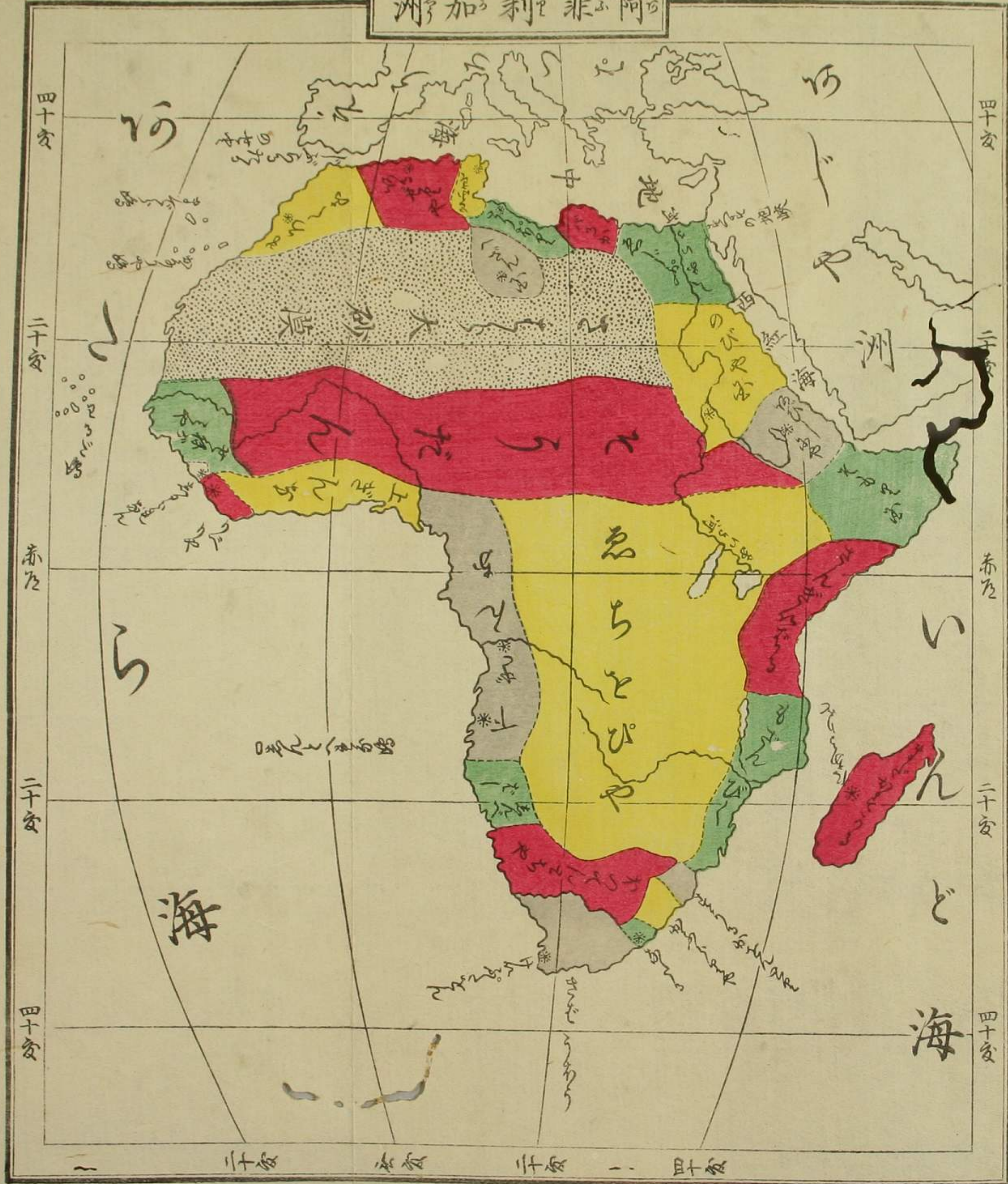
其その名な高たか島しま紀き去こ地ちハ全ぜんて
 是こゝ地ち乃すなはち名な不ふ同どう
 麻あま寺てら島しま概おほ之の人ひとと多おほ
 人ひと麻あま寺てら島しま隣となりカ
 加か里り屋やハ加か奈な利り屋や

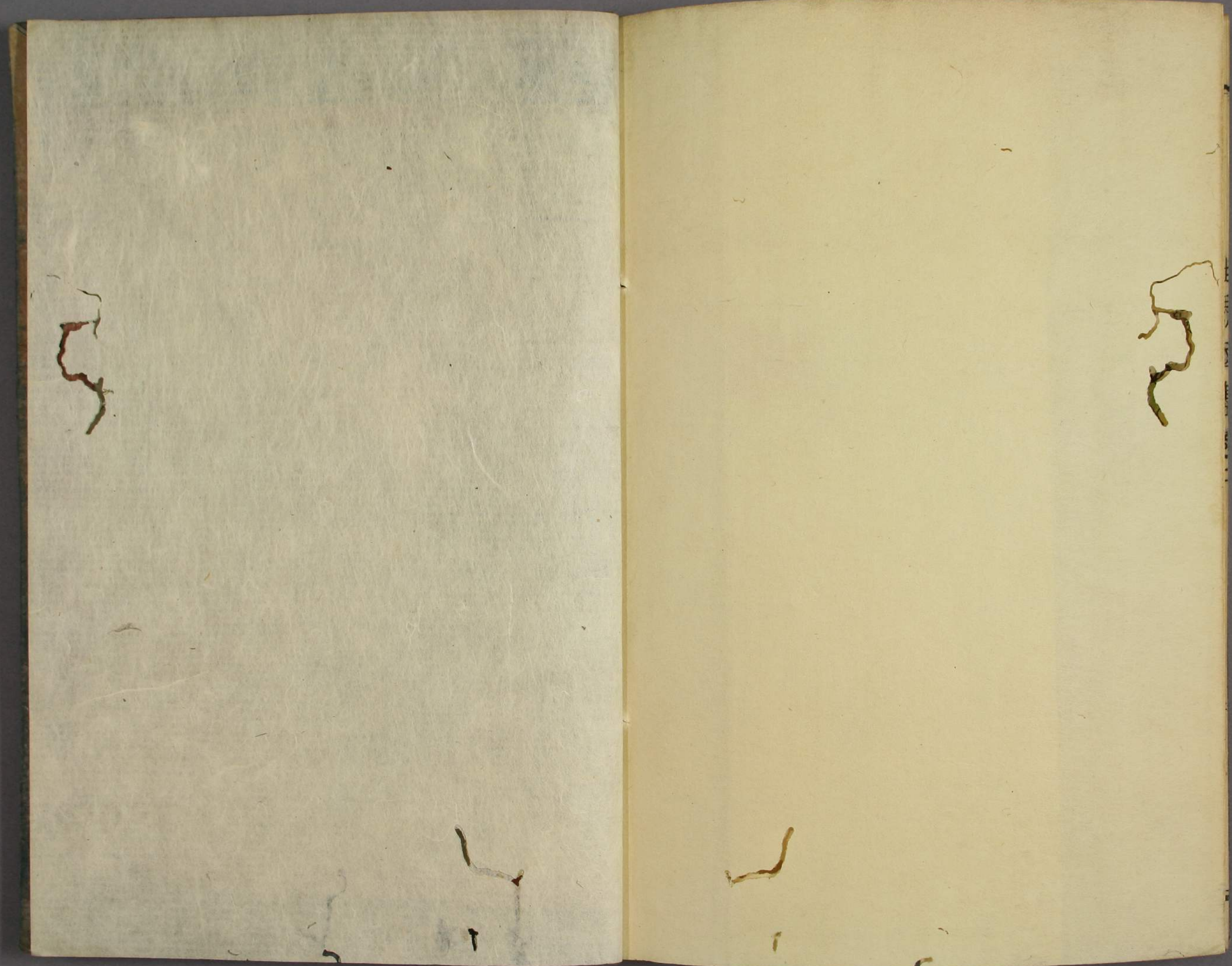
「たお色とんを此島
 小流さき千八百二
 十一年五月五日
 命と終せし死後も
 罪人の取扱ありし
 が千八百四十年佛
 蘭西人の心願より
 大造り禮式小
 て本國の都巴里斯
 へ改革せり

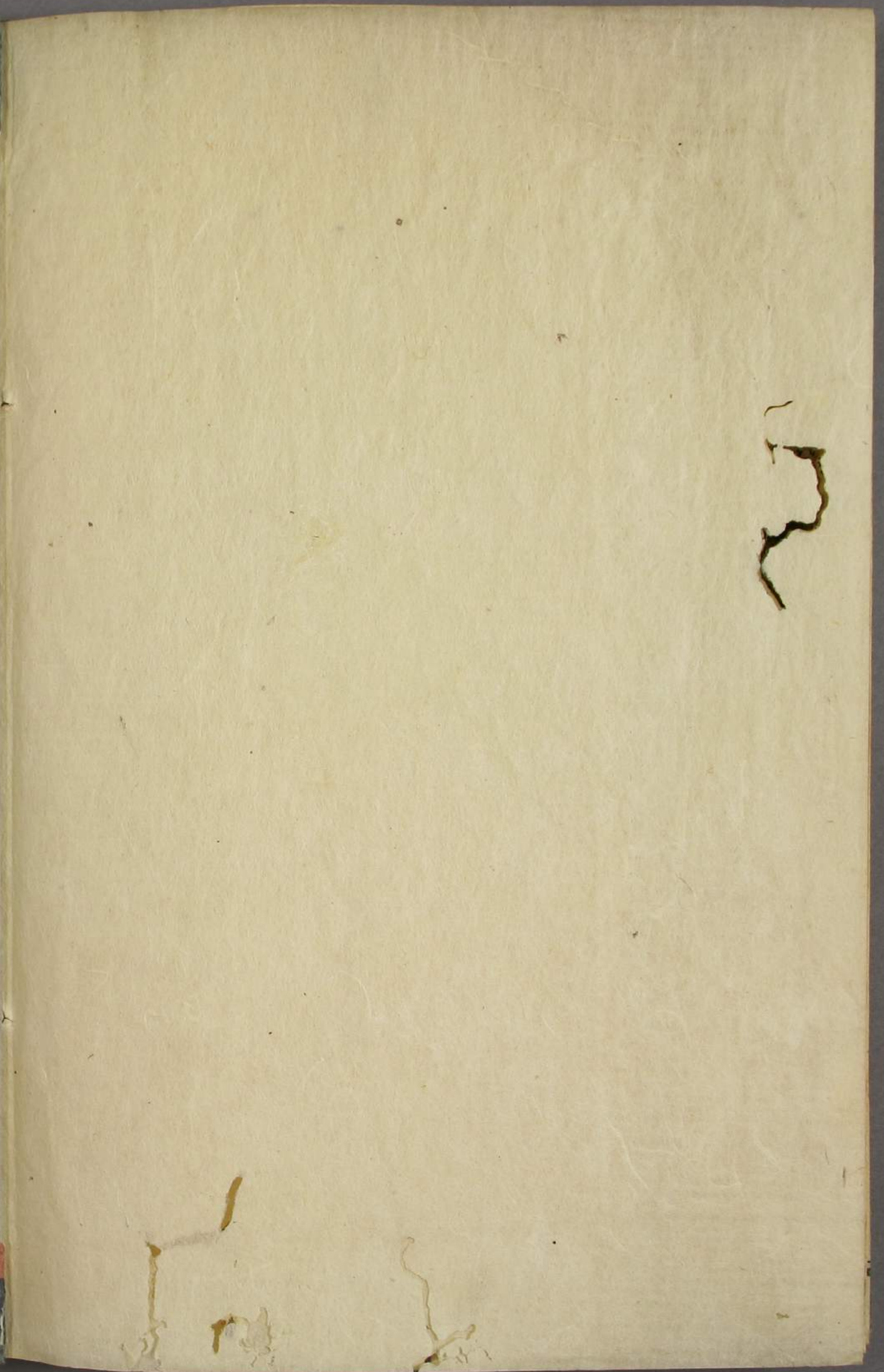
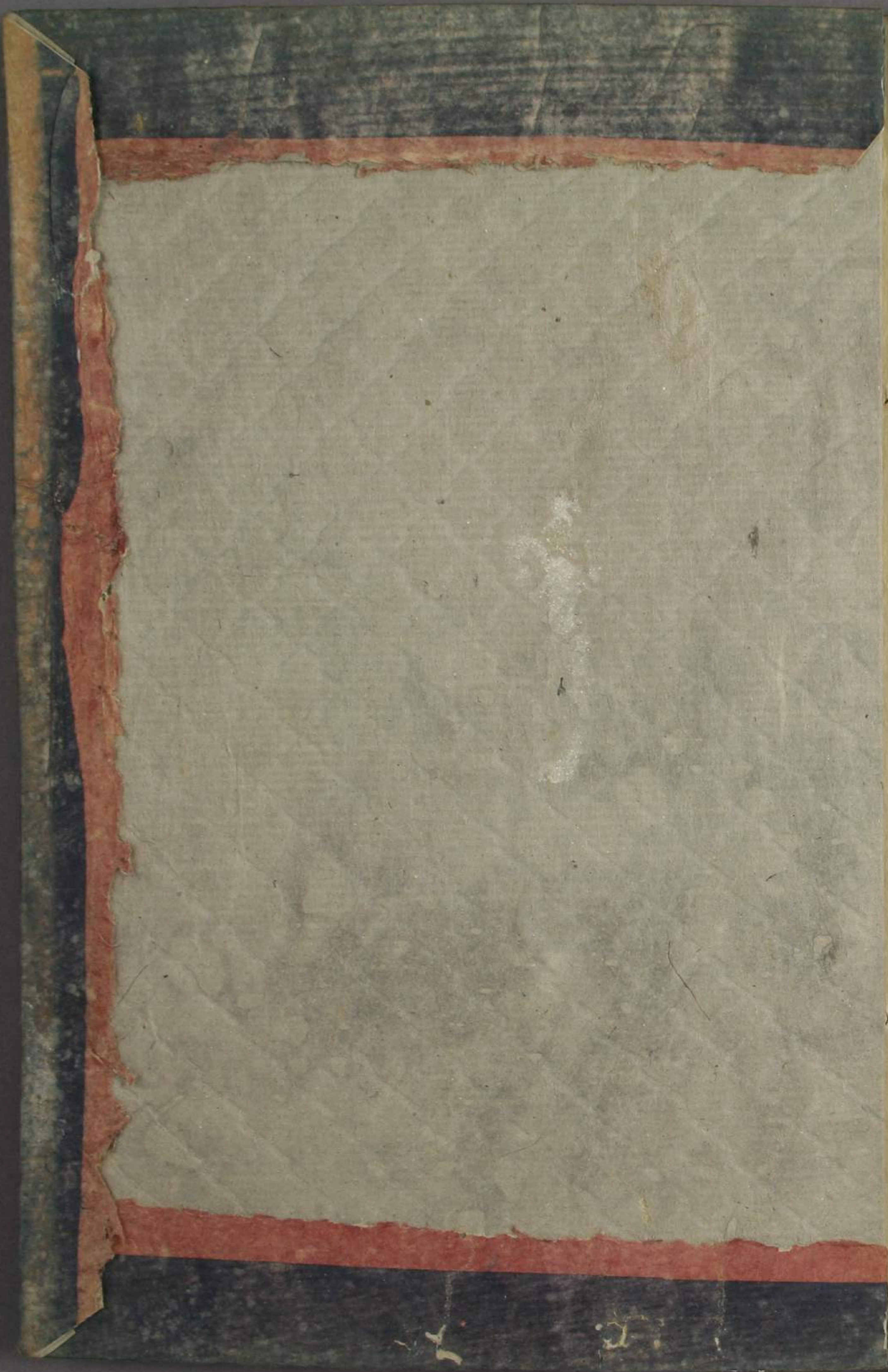
阿留根の幾も運
 弁考くお欠く流
 罪となりし由來より
 嶋の名譽を中へ
 女子



阿非利加洲







明治二年己丑初冬



世界



福澤諭吉譯述



